

Kameda

亀田総合病院報

2022

7



新しい日常に向けて

医療法人鉄蕉会 理事長 亀田隆明

ようやく我が国の新型コロナウイルス感染症も収束の兆しが見え、外国人の受け入れ態勢も徐々に緩和されてまいりました。ロシアによるウクライナへの侵攻や中国のゼロコロナ政策による国際的な流通問題、急激な円安、燃料をはじめとする消費者物価の高騰など社会の不安定要素は枚挙にいとまがないほどですが、社会活動は少しずつ回復してきたように感じます。依然として医療関係者の行動制限は当院を含めて厳しく自己規制している状況ですが、今後は医療人としての良識のもとに節度ある社会活動を再開し、新しい日常を作り上げてゆく時期だと思えます。

この2年間余り、当法人内の各事業所において、会食をはじめとする職員同士の交流が厳しく規制され、特に新入職員などは仕事上もプライベートにおいても困難な時間を過ごされたことと思います。ウェブ会議や遠隔医療など便利になり今後とも進化させたい部分もありますが、やはり人間社会におい

て、人と人の交流を通してお互いを理解しあい、良いチームワークを作り上げることの重要性はいささかも変わるものではないと考えます。

その一環として、2020・2021年は感染症のまん延やオリンピックの開催による関係者の都合で開催を見送っておりましたが、2012年から2019年まで毎年続けて開催してきた医療人のためのサーフィン大会「Kameda Cup in Kamogawa 2022」を7月17日、開催することといたしました。地域感染症疫学・予防センターの指導の下、例年のようなステージや酒類の提供はできませんが、医療人の良識を信じてささやかでも大会を継続してゆくための一歩、少しでも医療人や地元の方々に新しい日常を提供してゆきたいと考え開催を決断いたしました。

反対意見の方もいらっしゃると思いますが、社会を一歩ずつ前に進めてゆく一助になることを願っています。



非常用発電機の点検風景。燃料タンクが満タンの状態で、7日間医療活動の維持が可能

「天災は忘れたころにやってくる」という警句がありますが、日本では近年、忘れる暇もないほど大規模災害が毎年のように発生しています。

災害時に、被害を最小限にとどめ、病院機能を維持するためにはライフラインや施設の安全をいかに確保するかが大切です。今回は当院の災害対策について施設管理課や災害対策調整室を取材しました。

災害大国ニッポン

世界で起こるマグニチュード6.0以上の大きな地震の2割が日本で発生していることをご存知ですか？ 国土を海と山に囲まれ、水資源が豊富な日本列島は、豊かな自然に恵まれた一方で、昔から災害と隣合わせで暮らしてきました。

日本の災害医療や医療機関の災害対策も、実災害の教訓から整備や強化がされてきました。その一つに、「災害拠点病院」の整備が挙げられます。

災害拠点病院は、一度に多くの患者が発生する大規模災害発生時に各地域の初期救急の中心になる病院のことで、当院は1996年に千葉県「基幹災害拠点病院」の指定を受けています。指定要件には高度な救命医療機能を持つこと、ヘリポートや一定水準の自家発電など災害時に診療を継続できることなどが求められており、近年は病院の自活能力の強化がより厳格化されています。

建物の地震対策

地震に強い建物をつくるには、「耐震」「制震」「免震」の3つの概念がありますが、それぞれ地震に耐えるメカニズムが異なります。

当院の場合、13階建てのKタワーでは建物の地下に特殊な装置を設置し、地震の揺れが建物に伝わりにくくする「免震構造」を採用しています。高層の建物などで多く取り入れられてい

る構造で、ゆったりとした穏やかな揺れが特徴です。

Kタワー以外の建物は、壁や柱、床などを頑丈にすることで地震の揺れが加わっても損傷を受けにくくする「耐震構造」でつくられています。建物そのものは強固ですが、建物内部に振動が伝わりやすく、上階ほど揺れ幅が広がるという特徴があります。

施設管理課の高尾紀一課長(写真)によれば、「東日本大震災以前は、病院の災害対策のなかでも津波被害への対策はほとんど検討されてこなかった」と言います。海沿いに立地する当院も、それは例外ではなく、「東日本大震災以降、当院で建てられた建物では、津波被害を想定し、可能な限り主要な施設は2階以上に配置するなど設計上の工夫を行っている」とのこと。



地域リスク

災害時、医療機関で生活基盤となるライフラインが途絶え、地域への医療提供が困難になれば、救うべき患者を救えないなど人命にも関わります。

災害対策調整室の小倉健一さん(写真)によれば、「鴨川市は南東が海に面し、北東から南西部を取り囲むように山間部が広がっており、主要幹線



道路が地すべりや山腹崩壊の想定地域にあるため、大地震が発生した場合は主要幹線道路が土砂崩れなどで使用不能となり、「陸の孤島」となる可能性がある」そうです。

また、当院周辺地域の被害想定を自治体のハザードマップや過去の被害をもとにリスク分析したところ、「大津波警報10mが発令された際、当院は浸水範囲に想定されるほか、1時間当たりの降水量が20~30mmを超えると冠水する可能性や、満潮時に台風が上陸すると施設内の河川が増水する可能性があることが明らかになった」とのこと。そのため、災害の種類や地域特性も考慮した防災、減災対策が求められると言います。

そこで、当院では県や市など関係機関や企業と災害時の優先供給協定を締結すると共に、さまざまな事態に備えた対策を組み合わせることで、ライフラインの安定供給に努めています。

当院の災害対策

緊急時、適切に対応するためには、災害発生時の初動対応や診療提供に必要な行動指針を示した「災害対応マニュアル」の作成や、医療機関が被災時においても医療提供を継続するために必要な備えや緊急時の対応をあらかじめ計画して手順化した「事業継続計画(BCP)」を策定しておくことが極めて重要です。

とくにライフラインに影響が及んでいる場合、施設の被災やスタッフの参集が難しいなど、さまざまな理由か

ら医療提供能力の低下が予想されるため、あらかじめ緊急時の対応を決めておくことで、医療提供能力の低下を抑制、復旧期間を短縮することができます。

1. 電気

医療機関には人工呼吸器や心拍モニターなど患者さまの命をつなぐ装置が数多くあるため停電対策は重要です。手術中、何も対策がされていなければ必要な電気や機械がすべて使えなくなるため、命にかかわる事態が発生したり、診療に必要な電子カルテが使えなくなったり、温度管理が必要なワクチンや医療品を保管する保冷庫やフリーザーが停止したりと、広範囲にわたって問題が発生してしまいます。

病院の電気設備は人命にかかわるため、一般の電気設備よりも厳しい基準で規定されています。

①特別高圧受変電設備

診療に必要な電気の安定供給を維持するため、電力区分のなかでも特に高圧の「特別高圧」の電力供給を受けており、電力会社の協力のもと特別なルートを確保することで、台風の時にも安定した電気の供給が受けられる環境を整えています。緊急用の予備線を含め2系統から受電しているため、本線が落雷などで停電した場合でも、予備線に切り替えることで、電力の供給を継続することが可能です。ただし、切り替わるまでの間は一時的に電力供給が途絶えるため、その間、非常用発電機が稼働します。

②非常用発電機

院内の大きな建物に1台ずつ、計10台の非常用発電機を設置しています。また燃料となる重油も常時1週間分(30kl×4本のタンク)が確保されています。

ただし、平時に使用される電力のすべてを非常用発電機でまかなうことはできないため、命を守るもの、治療に必要なものの優先で非常用電源から電力供給を行います。

③無停電電源装置(UPS)

手術室や集中治療室、電子カルテ等のサーバーなど最重要箇所にはUPSを取り付け、万が一、電力が一瞬でも供給されなくなる事態が発生しても、患者さまの命を危険にさらすことがないように、また治療に必要な医療データが消える被害を防ぐ対策をとっています。

④電線類地中化

記録的な暴風で甚大な被害をもたらした令和元年房総半島台風では、県内で送電塔2本と電柱84本が倒壊したほか、推計約2,000本の電柱が損傷を受けました。また、倒れた電柱で緊急車両が通れないという状況も発生しました。

当院では、表通りに面した敷地は1990年代に電柱や電線類の地中化を進めたため、竜巻や台風などが起きた時にも電柱倒壊等による被害の心配がないほか、歩道の有効幅員が広がり、通行空間の安全性が確保できるなど道路の安全性を高めることに貢献しています。

そのほか、毎年秋に、実際に電気

設備を停止させた「電気設備年次点検」を実施することで、電気設備の安全使用に努めています。



チェックポイント:

職員は電気設備年次点検の停電時に、ぜひ身のまわりの機器や電気設備の何が使えて、何が使えないのか、一度確認してみましょう。



コンセントやスイッチの色にも意味がある。赤いコンセント、グレーのスイッチは非常用電源



2. 水

医療現場では人工透析や洗浄、清掃などで大量の水を使います。災害時には、水の使用優先順位を決め節水対策に取り組むなど断水対策と、トイレの代替方法など下水の対策も検討しておくことが必要です。

①受水槽

受水槽には常時670tの水が貯水されています。しかし、当院が平時に使用する1日の使用水量は600tにのぼるため、普段どおり使用したら1日で使い切ってしまう計算です。断水が長期化する場合は鴨川市に給水車で応急給水を依頼し、透析治療を行うG棟を給水の最優先として対応します。これとあわせて、断水時にはシャワーや入浴の禁止、水を使用しない簡易トイレキットの活用や、食器の洗浄を省くため食器にラップを巻いて使用するなど、節水対策が求められます。

なお、敷地内の主だった建物は、受水槽の水を揚水ポンプで屋上の高架水槽に汲み上げて溜め、高架水槽

から重力によって給水管を通して各蛇口に供給する「高置水槽方式」を採用しているため、停電時にまったく水が使用できなくなることはありません。反対に、「加圧給水方式」を採用している建物（C棟、PET-CTセンターなど）では、給水に電力を必要とするため停電になると水がまったく使用できなくなってしまう。

本来、建物の屋上に高架水槽のような重量のあるものを設置することは、建物の揺れを増幅してしまうため避けたいところですが、断水時の水の確保や給水圧力の安定を目的に、当院では主だった建物は高置水槽方式を採用しています。



棟	受水槽	残量	動作	備考
A	102c	147c	→	
B	52c	147c	→	
C	45c	147c	→	
D	50c	147c	→	
E	112c	147c	→	
F	112c	147c	→	
G	112c	147c	→	
H	112c	147c	→	
I	112c	147c	→	
J	112c	147c	→	
K	112c	147c	→	
L	112c	147c	→	

断水時、受水槽残量情報を共有することで断水問題に対応(令和元年房総半島台風のととき実際に使われたボード)

②地下水(井戸水)

断水時の給水を補うため、敷地内に井戸を掘り、1日150tの水を汲み上げて使用できるようにしています。また、給水量としては少ないものの職員で組織される自衛消防隊では、海水を真水に変えることができる濾過装置なども導入しています。

③ペットボトルなど飲料水の備蓄

入院・外来の患者さまや職員の飲料水などはペットボトルなどで備蓄しています。いざという時に消費期限切

れを起こさないため、期限間近のものは調理室で有効活用するなど、備蓄品の鮮度を保つよう工夫しています。

3. ガス

手術や酸素療法、人工呼吸器管理などの場面で多用される「医療用酸素ガス」は、災害に伴うトラブルでその供給が途絶えると、重症患者さまが生命の危機に陥ってしまいます。そこで、当院では平時から12日間程度供給可能な量の液体酸素をタンクに備蓄しているほか、予備のボンベを病棟やタンク庫に配置しています。

4. 通信

災害時には、ICT(情報通信技術)を活用した情報伝達・共有が重要です。また、病院の機能維持に必要なライフラインを確保するためにも外部との通信手段を確保しておくことが不可欠です。当院では、固定電話やPHSが使用できない場合に備え、災害時優先電話や衛星携帯電話など複数の通信手段を用意することで、外部との通信手段を確保しています。今は電子カルテを通じて薬や検査の処方(オーダーリング)をしているため、電子カルテの停止は通院、入院中の方に多大な影響を与えます。

当院では昨秋、システムダウンを想定した災害訓練を実施しましたが、そのすぐ後に徳島県の病院がコンピュータウイルスによるサーバー攻撃を受け、電子カルテシステムが停止し、病院が実質的な機能停止状態に追い込まれるという被害が発生しまし

た。完全復旧までに2か月半を要したそうで、以降医療機関を狙ったサイバー攻撃は後を絶ちません。地域医療を守る上で、セキュリティの向上は全ての医療機関で喫緊の課題となっています。



システムダウンを想定した災害訓練の様子。紙運用に切り替えて診療・検査を行う

平時の心構え

災害はいつ起きるかわかりません。日頃から意識しておかなければ、いざという時にスムーズに動くことはできません。大切なのは、日常業務の延長線上に災害対策を位置づけること。言い換えれば、災害時だけの特別な動きは、とっさにはできません。だからこそ、訓練でやってみることが重要です。「災害対応マニュアル」も都度内容が更新されています。この機会に再度確認しておくようにしましょう。また、院内を移動する際などに各建物のどこに非常階段があるのか、非常用電源はどこについているのか、確認しておくことも大切です。

今回は施設面の災害対策を紹介しましたが、どんなに環境が整っていても、それを使う人たちがそのことを知らなくてはスムーズな行動につながりません。職員ひとり一人の防災意識が肝心です。

2021年度 患者さま満足度調査結果

調査概要

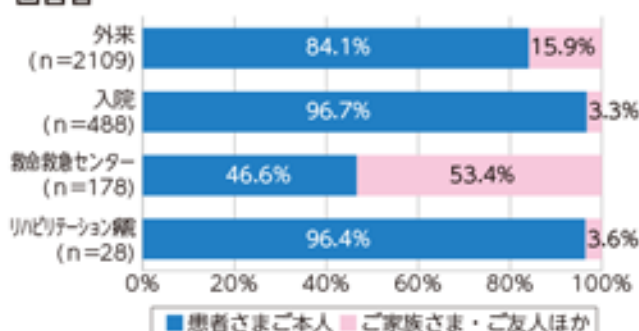
調査期間：亀田クリニック	2021年11月1日～11月6日（計6日間）
亀田総合病院（入院）	2021年11月1日～11月30日（計30日間）
亀田総合病院（救急）	2021年11月5日～11月15日（計11日間）
亀田リハビリテーション病院	2021年11月1日～12月31日（計61日間）

対象施設：亀田クリニック、亀田総合病院（入院、救急）、亀田リハビリテーション病院

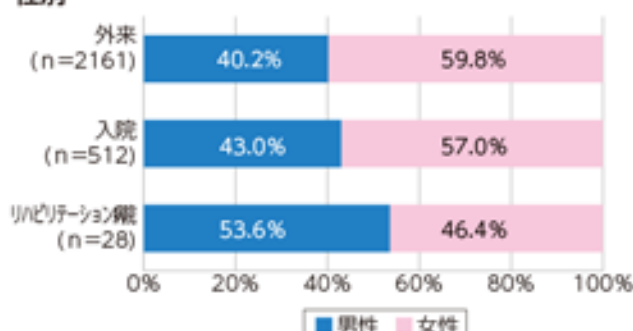
調査形式：紙媒体の調査票を用いたアンケート。回答者が院内の回収ボックスに投函し、アンケートを回収。

回収結果：全体の回収数（回収率）は2,952（83.6%）、施設別では外来 2,194（89.6%）、入院 526（65.4%）、救急201（88%）、リハビリテーション病院 31（62%）であった。

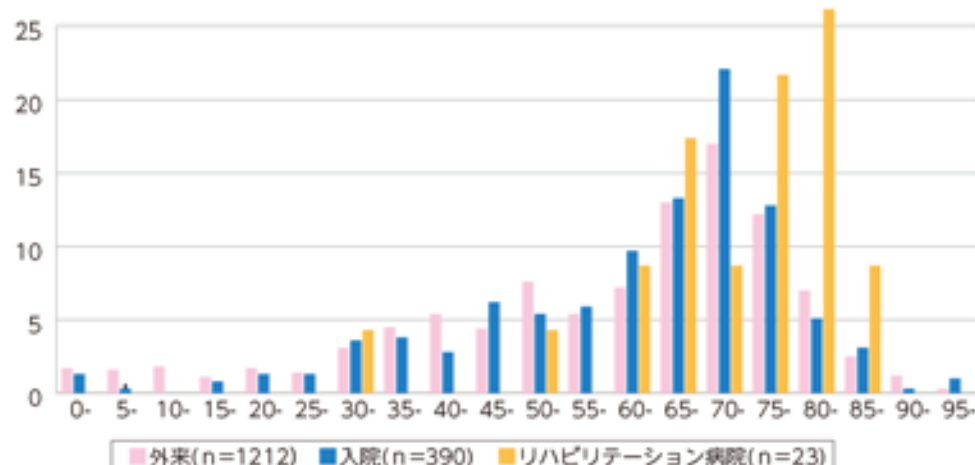
回答者



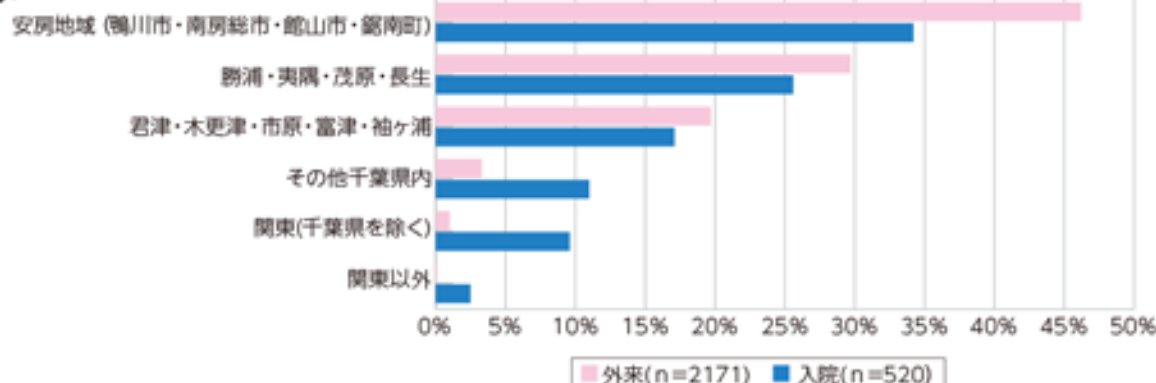
性別



年齢

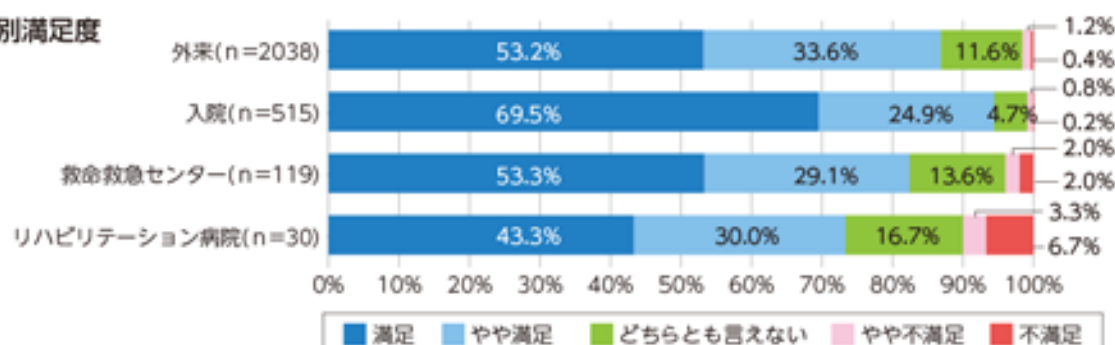


住まい



施設別満足度

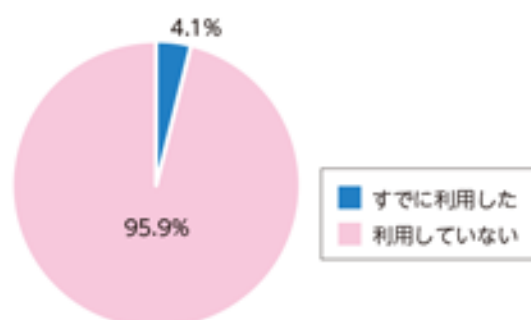
施設別満足度



外来

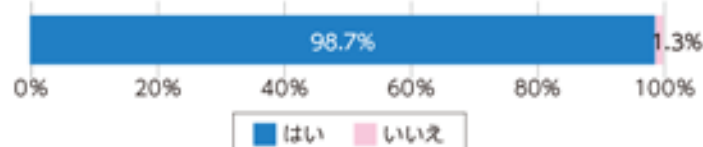
NOBORIアプリを利用していますか(n=2084)

※アプリ導入から1か月後のアンケート結果



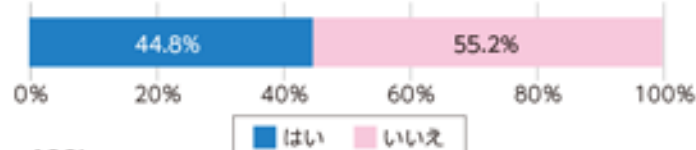
利用した方

NOBORIアプリを利用して便利だと思いましたか(n=78)



利用していない方

NOBORIアプリを今後利用したいと思いますか(n=1904)



NOBORIアプリで利用した機能を教えてください(n=192)



★患者さまコメントより、NOBORIアプリで対応している内容



- ・待合室が混んでいて座れない。ポケベルのようなもので室外にいてもわかるようにしてほしい。
- ・待合室が混雑しているため、何か呼ぶサービスがあったらとてもありがたい。
- ・薬・会計の待ち時間が長すぎてつらい。
- ・診察・会計・薬の待ち時間が長すぎる。待ち時間にずっとイスに座っているのはつらいです。
- ・薬局が混んでいるとき、郵送になった方がよい。
- ・待ち時間がとても長く苦痛だったので、NOBORIアプリに期待したい。

アプリ機能1：待合室へ呼び出し → 診察開始呼び出し

アプリ機能2：クレジットカード登録、医療費後払いで会計に並ばず帰宅！

あわせて、お薬宅配とセットで利用し、診察終了後、そのまま帰宅可能に！

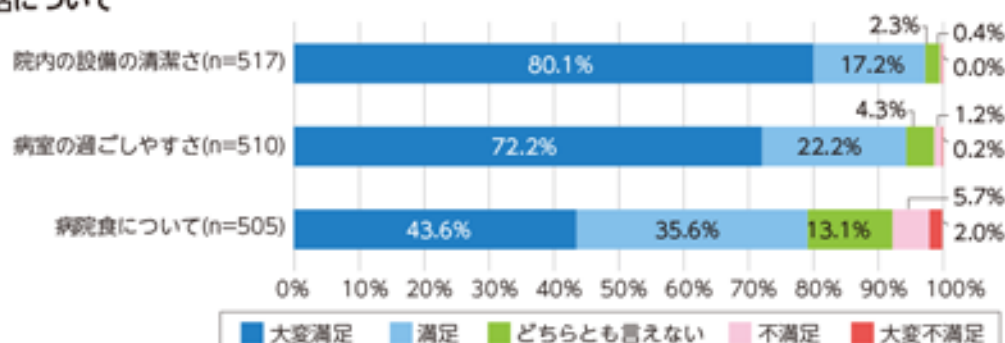
※詳しくは、パンフレット「アプリを使ってラクラク受診」をご参照ください。

★外来に関するコメント(原文のまま)

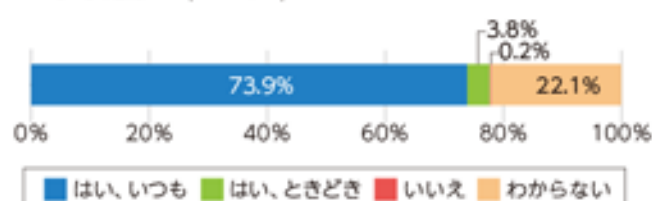
- ・自動再来受付機の1時間前受付システムは良いと思います。朝の混雑がなくなりました。
- ・医師・職員の皆さんのご対応は不安を抱えて来院の私にとってとても安心を与えていただいています。ありがとうございます。
- ・ネット予約できるようにしてほしい。
- ・待合室に呼び出しの電光掲示板が欲しい。マイク呼び出しは聞き取りにくい。

■入院

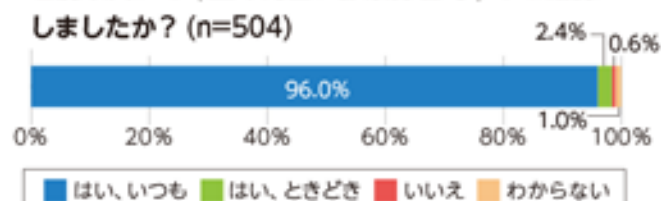
入院生活について



病院職員はあなたに触れる前に、手指消毒をしていましたか？(n=494)



病院職員はあなたに医療行為するにあたって、お名前以外にも(生年月日、診察券番号)など確認しましたか？(n=504)

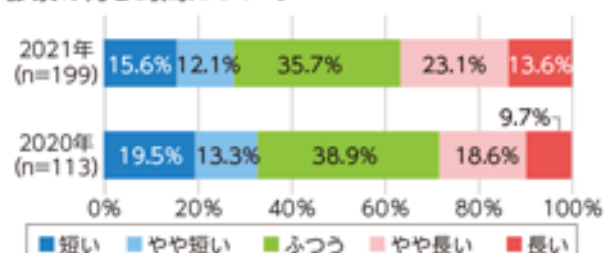


★入院に関するコメント(原文のまま)

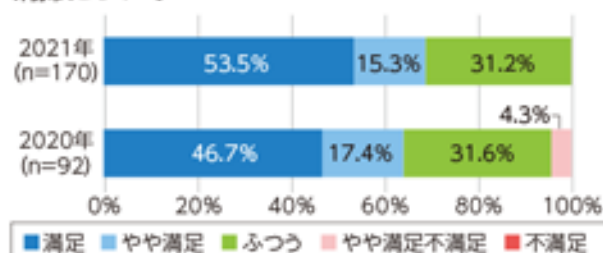
- ・環境、設備、人材とどれも素晴らしくて、入院中気持ちが楽になり、安らぎを感じました。
- ・初めての手術、入院に不安がありましたが病院の皆様と話したり接して行くうちに消えていきました。いつも気持ちよく私の声に耳を傾けてくださり、対応していただき思っていたよりも、とても快適な入院生活を送ることができました。
- ・マニュアル+応用対応していただきとても助かりました。サービスの深さに感謝いたします。
- ・病院食とは思えないほど、バラエティ豊かでとても美味しくいただきました。
- ・靴(シューズ)のパタパタ音が気になりました。
- ・予定がわかりにくいのでわかりやすくしてほしい…

■救命救急センター

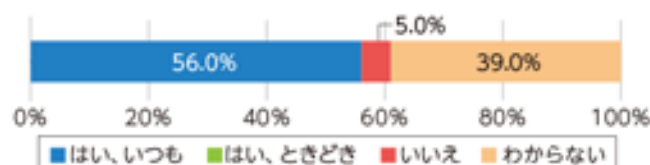
診察の待ち時間について



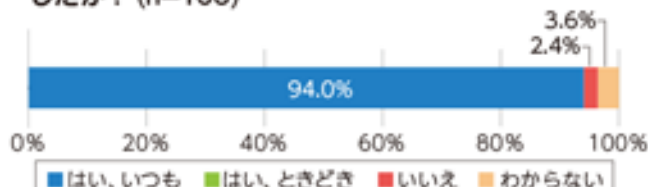
清掃について



病院職員はあなたに触れる前に、手指消毒をしていましたか？ (n=100)



病院職員はあなたに医療行為するにあたって、お名前以外にも（生年月日、診察券番号）など確認しましたか？ (n=166)

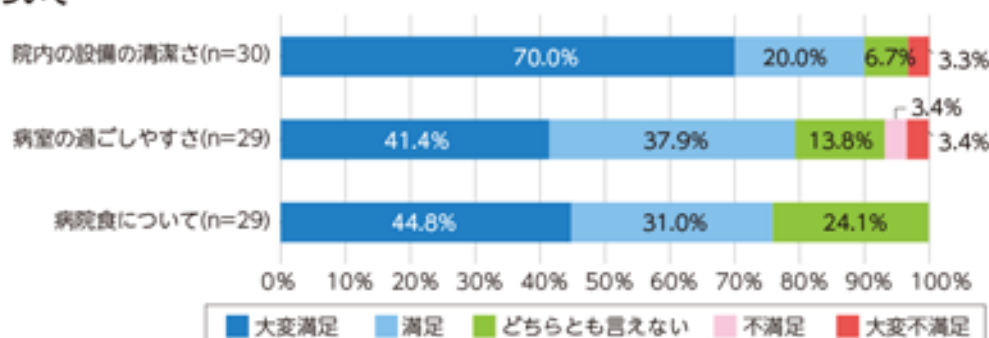


★救命救急センターに関するコメント(原文のまま)

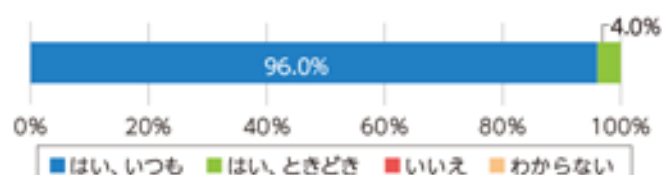
- ・いつも優しく対応して頂けて感謝しております。ありがとうございます！！
- ・いつも大変お世話になっていて、亀田に来るのが一番安心です。

■リハビリテーション病院

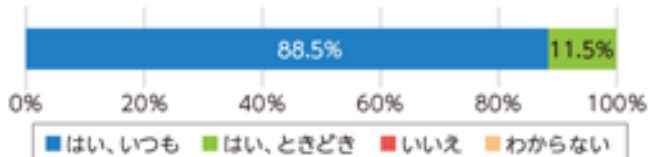
入院生活について



病院職員はあなたに触れる前に、手指消毒をしていましたか？ (n=25)



病院職員はあなたに医療行為するにあたって、お名前以外にも(生年月日、診察券番号)など確認しましたか？ (n=26)



★リハビリテーション病院に関するコメント(原文のまま)

- ・病院というと暗いというイメージが一般的ですが、ここ亀田は看護師さん療法士さんにしても患者さんに明るくやさしく接して下さいますので、時には笑いもあつたりして体に良い免疫力もあがって回復も早くなりとてもよいことだと思いました。

今回のアンケート結果を院内各部署にフィードバックし、今後、多職種による委員会にて改善活動に取り組んで参ります。

お気づきの点がございましたら、引き続きご意見をいただければ幸いです。



CLOSE UP NEWS

クローズアップニュース

2022年度 医師初期研修

本年度臨床研修課程の初期研修医として第36期生23名が採用され、35期生23名とあわせて46名が臨床研修をスタートさせました。

各医師の氏名は次の通り。(敬称略)



《1年次生》

○亀田初期研修プログラム

- ・板垣 奈恵(順天堂大学)
- ・一柳 咲佑美(藤田医科大学)
- ・佐久間 啓(神戸大学)
- ・司馬 康(東京大学)
- ・高木 未唯(北里大学)
- ・高久 太輝(島根大学)
- ・武田 侑真(東京医科歯科大学)
- ・伊達 裕美子(岡山大学)
- ・田中 聖人(東北医科薬科大学)
- ・槇田 智史(北里大学)
- ・南方 雄介(順天堂大学)
- ・山田 健二(千葉大学)
- ・内村 良平(東京医科歯科大学)
- ・福岡 悠生(北海道大学)
- ・松澤 優実(昭和大学)
- ・松本 絵美(日本医科大学)
- ・山田 剛大(名古屋市立大学)

○亀田産婦人科プログラム

- ・鶴飼 亜里沙(聖マリアンナ医科大学)

○亀田小児科プログラム

- ・上園 琢未(順天堂大学)
- ・山本 蓮(奈良県立医科大学)

○地域ジェネラリストプログラム

- ・後藤 初菜(藤田医科大学)
- ・田島 光盛(北里大学)
- ・玉井 瑛(慶応義塾大学)

《2年次生》

○亀田初期研修プログラム

- ・石田 裕也(東京医科歯科大学)
- ・大場 俊輝(北里大学)
- ・久保田 泰弘(弘前大学)
- ・鄭 昌原(延世大学校)
- ・関 美月(岡山大学)
- ・松田 恵実(東北大学)
- ・光石 清人(東北大学)
- ・百浦 恭平(滋賀医科大学)

- ・吉田 恭子(東京医科歯科大学)
- ・伊原 賢吾(昭和大学)
- ・牛田 雄太(東京医科歯科大学)
- ・及川 孔(福島県立医科大学)
- ・栗岡 辰典(昭和大学)
- ・奥石 佳那(旭川医科大学)
- ・成家 悠太(東京大学)

○亀田産婦人科プログラム

- ・佐藤 真子(昭和大学)
- ・西村 直子(高知大学)

○亀田小児科プログラム

- ・柏木 淳史(北里大学)
- ・津田 正太(東邦大学)

○地域ジェネラリストプログラム

- ・金井 祐樹(東京大学)
- ・河邊 健人(愛知医科大学)
- ・五藤 沙也香(日本医科大学)
- ・山田 壮史(島根大学)

2022年度 歯科医師臨床研修

歯科医師卒後研修室では、研修歯科医として第26期生の9名が採用され、辞令交付が行われました。(敬称略)



- ・阿部 未愛(昭和大学)
- ・高宮 由衣(神奈川歯科大学)
- ・泊 真由(日本大学)
- ・東山 実夢(昭和大学)
- ・松澤 功武(東京歯科大学)
- ・三須 悠大(日本歯科大学)
- ・宮本 豪(東京歯科大学)
- ・山 由起(日本大学)
- ・寺本 圭吾(神奈川歯科大学)(2年目研修)

亀田カイゼン・アワード2022

4月22日(金)、「亀田カイゼン・アワード2022」の発表会と表彰式が行われました。

職員の自発的な業務改善活動を促進するための表彰制度として昨年度から始まった亀田カイゼン・アワードですが、今年は全事業所から110件の改善提案の応募があり、1次～3次審査を経て15演題まで優秀演題が絞り込まれました。この日、代表者による取り組み発表が行われ、大賞(理事長賞)にコロナワクチンPJチームの「大規模集団接種の支援スタッフ募集・案内の取り組み」が選ばれました。

昨年、行政からコロナワクチン住民集団接種の委託を受けた亀田クリニックでは、1日最大4,500人の集団接種運営を企画、他の医療機関からも支援スタッフを募集し、人数調整と勤怠、賃金の管

理をする必要がありました。運営担当者は日常業務と兼任しながら大規模接種を円滑にまわす必要があったため、既存のソフトウェアなどを駆使し、業務を最大限効率化することで、短期間で大人数の調整を可能としスムーズなワクチン接種に結びつけることができました。この点が、「社会に貢献するとともに鉄蕉会の評価向上にも寄与した」と高く評価され、チームを代表して亀田クリニック業務課の谷美喜子課長に、亀田隆明理事長より表彰状と賞金が贈呈されました。

亀田隆明理事長は今年度の応募提案を振り返り、「昨年に比べて提案全体のクオリティが上がっていた。さらなる業務改善や提案の実践に取り組んでほしい」と職員のカイゼンマインドの醸造と、業務の効率化を図ることでさらなる医療サービスの向上に期待を寄せました。



「亀田カイゼン・アワード2022」の受賞提案は以下のとおり

【大賞(理事長賞)】

代 表 者	石井麻由美(亀田クリニック看護室)
提 案 名	大規模集団接種の支援スタッフ募集・案内の取り組み

【最優秀経営改善賞(経営管理本部長賞)】

代 表 者	沈 超(経営管理本部経営企画室)
提 案 名	学校法人の講師(看護師資格有)によるワクチン接種業務支援

【最優秀医療改善賞(医療管理本部長賞)】

代 表 者	湯山聡(亀田総合病院薬剤室)
提 案 名	血液・腫瘍内科病棟における薬剤テクニシャンへの注射薬混合調製業務のタスク・シフティング

【最優秀IT活用賞(情報管理本部長賞)】

代 表 者	渡邊友香(経営管理本部人事課)
提 案 名	入職書類を可能な限り自動化で登録するPJ

【亀田総合病院長賞】

「心筋梗塞のリハビリテーションパス改訂に伴う業務改善 -医師・看護師の業務量減少、リハビリテーションの質向上、収益増加-」

【亀田クリニック院長賞】

「健診結果デジタル配信プラットフォーム移管プロジェクト～NOBORIへの統合～」

【亀田リハビリテーション病院長賞】

「日当直表デジタル化」

【亀田ファミリークリニック館山院長賞】

「診療効率の改善」

【亀田京橋クリニック院長賞】

「人間ドック医師診察標準化プロジェクト(亀田京橋クリニック)」

【幕張クリニック院長賞】

「ファイル棚スペースの用途変更」

【亀田MTGクリニック院長賞】

「幕張女性センター 協力してドック進行ファイルを効率よく回そう!」

【亀田IVFクリニック幕張院長賞】

「CIS+とFileMakerの診療予約情報連携による業務効率の改善」

【亀田森の里病院院長賞】

「医事課による代表電話対応の削減について」

【亀田浜荻クリニック院長賞】

「プリビレッジ(診療権限付与)の情報共有・公開化の取り組み」

【業務改善特別賞】

「手術室における麻薬出納帳の電子化」





G棟をもっと知っていただくために

2020年末に着工した新棟「G棟」が5月末いよいよ本格稼働を始めました。総事業費約30億円を投じて建設を進めてきた背景には、基幹災害拠点病院としての機能強化や、患者さまやスタッフの安全面の強化があります。G棟の名前の由来となった「GUARD(ガード、守る・保護の意味)」機能を中心にご紹介します。

7F (屋上) 機械室



災害時に透析患者さまや帰宅困難者の受入ができるよう大型の非常用発電機を設置。

6F 透析センター

ベッド数70台、1日3クールで血液透析を主として、あらゆる「血液浄化療法」に対応。災害時でも安定した透析治療が行えるよう電気と水が確保されています。

また感染症などの疑いのある方でも安全に透析治療が継続できるよう、感染症対策を施した陰圧対応の個室も用意しています。

5F リハビリセンター 災害時受入室 (透析対応)

リハビリセンターは津波対策を強化し、また連絡通路を使うことにより、病棟からより安全に移動することができます。

災害時受入室の中には、透析対応の部屋もあり、災害などで透析の継続が難しい地域からの受け入れも行う予定です。

連絡通路
病棟へ

4F DRオフィス

3F ARTセンター

子どもをのぞむカップルに対し専門的な治療を行います。また若年がん患者さまが卵子などを凍結保存する妊孕性保存治療も行っています。G棟では停電時でも凍結された検体を守るよう環境を整えているほか、患者さまのプライバシーにも配慮しています。

2F 災害時受入室

フロア丸ごと「災害時受入室」としています。また通院中に災害が発生して自宅に帰ることができなくなってしまった患者さまや、職員のため、帰宅困難者の受け入れも行うことができます。

G棟は耐震等級を一段強化し、災害時頼れる存在となっています。

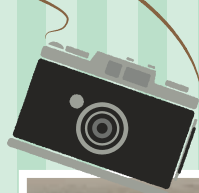
1F オフィス

構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
地上7階建て

敷地面積：8,593.57㎡ (2,599.6坪)

延べ床面積：新棟及び附属建物 7,582.45㎡





写真で見るG棟



6F 透析センター

透析を受ける方が「元気で長生き」できるよう、高度設備を備えた透析機器を備えています。70台のベッドは圧巻の眺めです。



5F リハビリテーションセンター

外光がいっぱいに差し込むリハビリセンター。同フロアには広いトイレと自動販売機も完備しています。



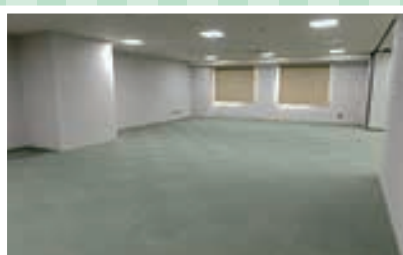
3F ARTセンター

ARTセンターは女性だけではなく、男性にとっても心地よい空間であるよう設計されています。



3F ARTセンター(培養室)

高い技術と、取り違えなどを防ぐ安全対策も行っています。災害時の備えも万全です。



2F 災害時受入室

広々とした災害受け入れ室はパーティションで区切ることもできます。個室タイプやシャワーも完備。



2F 備蓄庫

アレルギーにも対応可能な食べ物や飲み物のほか、治療につかう備品がいざという時のため眠っています。



1F エントランス

明るく広々としたエントランス。すべてのエリアがバリアフリーとなっており、車椅子の方も安心して利用できる造りになっています



熊谷知事が来訪

感染症対応の手術室や災害対策棟を視察

4月18日(月)、千葉県から熊谷俊人知事ならびに井口豪保健医療担当部長一行が医療法人鉄蕉会「亀田総合病院」(鴨川市)を来訪し、亀田隆明理事長、亀田俊明亀田総合病院院長らの案内のもと、完成したばかりの増設手術室(5室中2室は感染症対応手術室)や、新しく完成した「G棟」を視察しました。

はじめにこの春完成したばかりの感染症対応の手術室2室を含む5室の増設手術室を見学していただきました。(新しい手術室については病院報5月号をご覧ください)

続いて、5月より本格稼働を始めた新棟「G棟」をひと足早くご覧いただきました。同施設は、当

地の基幹災害拠点病院としての機能強化を目指し、千葉県や国からの補助金をいただき、災害に強い施設整備を進めるため2020年末より建設が進められてきました。

視察を終え、熊谷知事は「(感染症対応手術室や県の補助金も活用して整備された災害時の受入機能を持つ新棟を)直接視察させていただいたことで規模感がよくわかりました。また県の補助金もこういう形でしっかり活用されていることも知ることができました。今後も各医療機関と連携して医療提供体制を強化します」と語り、当院を後にしました。

「Customer Voice AWARD2021」

5月6日(金)午前9時より、「Customer Voice AWARD2021」の授賞式が亀田総合病院 A 棟 9 階小会議室で開催されました。

「Customer Voice AWARD」は、患者さまやそのご家族より、退院時に主にカスタマーコンタクトセンターに寄せられたお声の中から、特にお褒めをいただいた職員や部署を表彰するものです。

2021年度は以下の3部署が選ばれました。

- ・看護部 A棟3階
- ・看護部 手術室
- ・施設管理課 清掃係

看護部の受賞は、患者さまの不安や痛みを少しでも取り除こうと細かく声をかけ、患者さまの気持ちに寄り添うなどの対応に対して。

また清掃係は、患者さまが、とても過ごしやすく安心できる環境を作る姿勢などに評価をいただいていた受賞となりました。

授賞式では、部署を代表して A棟3階の富永恵美子師長、手術室の赤穂海香師長、施設管理課清掃係の山口未夏さんが出席し、亀田俊明病院長より表彰状が手渡されました。

受賞者からは、次のような感想をいただきました。

■「少ない人数で本当に患者さまに適切な看護が



提供できているのか不安に感じる事もありましたが、このように患者さまからの言葉をいただき大変光栄に思っています。今後も看護師、看護助手、事務と協力し、患者さまに快適な入院生活を過ごしていただけるよう努力して参ります」(看護部 A 棟 3 階)。

■「昨年に引き続き賞をいただき、本当にうれいす。日々忙しい業務の中で大変スタッフの励みになります。手術室という閉ざされた環境で手術に来られる患者さま一人ひとりにスタッフが思いを込めて関わっている結果だと思ひます。患者さまにとっては、手術は人生の大きなイベントとなりますので、これからも一人ひとりに寄り添った看護ができるよう努力していきたく思います」(看護部手術室)。

■「この度は、このような賞をいただき大変うれしく思っています。今後も患者さまが快適に過ごせる環境作りを目指してがんばっていきたく思います」(施設管理課清掃係)。

電力合理化の取り組みで受賞



2021年度関東地区電気使用合理化委員会委員長表彰において、エネルギー管理優良事業者等に贈られる「最

優秀賞」を当院が受賞しました。

電気を効率よく使うための普及・促進・PR活動に取り組む関東地区電気使用合理化委員会では、毎年2月の省エネルギー月間に、電力の有効活用、省エネルギー(以下省エネ)の推進、負荷率の向上等に優秀な実績をあげた事業者等の表彰を行っており、その取り組みに応じて「最優秀賞」「優秀賞」「優良賞」が贈られます。

当院では省エネ・節電対策の一環として、近年施設内の照明を蛍光灯から消費電力が少なく寿命の長いLED照明へ置き換えを進めています。今回はこうした取り組みの成果が評価され、受賞となりました。千葉地区からは当院や鴨川シーワールドなど4事業所が最優秀賞を獲得しています。

受賞を受け4月21日(木)午後、関東地区電気使用合理化委員会の代理で社団法人千葉電気協会より表彰状が当院に届けられ、「今後もぜひ電力合理化の取り組みを継続してほしい」と亀田俊明亀田総合病院長に直接表彰状が手渡されました。

当院では今後も、照明のLED化をはじめ機械類の更新時には、より省エネ効果の高いものへ切り替えるなど、病院として各種省エネ・節電対策に継続的に取り組んでまいります。

「2021年度 Paper of The Year」受賞者

3月4日、亀田医療大学総合研究所(橋本裕二所長)が主催する「2021年度 Paper of The Year」の受賞者が決定しました。

Paper of The Yearは、亀田医療大学総合研究所が保健、医療、福祉等に関する研究の支援を行うため、主として亀田医療大学教員や医療法人鉄蕉会に勤務する職員を対象に、若手研究者の優れた研究結果に対して専攻・表彰するもので、今回で8回目を数えます。

今年度は各部門から21編の応募があり、そのうち半数が英文論文でした。亀田医療大学総合研究所運営委員会による厳正な選考が行われ、研究の独創性・新規性で高い評価を受けた泌尿器科の越智敦彦医師の「Zoning inside the renal fascia: The anatomical relationship between the urinary system and perirenal fat」がBest Paper of The Yearに選出されました。各部門の受賞者は以下のとおり。
※敬称略

・ Best Paper of The Year

越智敦彦(亀田総合病院 泌尿器科)

・ 医師部門

寺尾俊紀(亀田総合病院 血液・腫瘍内科)

・ 後期研修医部門

藤井真理映(亀田総合病院 麻酔科)

谷口順平(亀田総合病院 呼吸器内科)

・ 看護部門

三井健治(亀田総合病院 看護部 B3)

・ 薬剤師部門

平田一耕(亀田総合病院 薬剤部)

・ 臨床検査技師部門

大澤郁子(亀田総合病院 臨床検査室)

・ 臨床工学技士部門

森 信洋(亀田総合病院 ME室)

・ リハビリテーション専門職部門

齋藤 洋(亀田総合病院 リハビリテーション室)

・ 亀田医療大学部門

路 璐(看護学部)

・ その他

中野かおる(亀田京橋クリニック 看護室)



NOBORIを使って

ラクラク お薬宅配

医療情報管理アプリ「NOBORI」の後払いサービスをご利用中の方向けに「お薬宅配」サービス(有料)を開始しました。後払いサービスと併せてお使いいただくと、診察後、会計や薬局に並ぶことなくすぐに帰宅できます。

※ご利用にはNOBORIの住所登録が必要です。お間違いのないよう、利用前に登録内容のご確認をお願いします。
※お薬宅配の希望は「診察時」に医師までお申し出ください。
※発送は翌日(日曜・祝日は含まず)になります。お薬の残量にご注意ください。
※お薬によっては配送できないものがあります。

薬



まずは NOBORI に
ご登録ください

Available on the iPhone
App Store

ANDROID APP ON
Google play



原洋子看護師に「瑞宝単光章」



4月29日(金)、令和4年春の叙勲受章者が発表され、品質管理課の原洋子看護師が瑞宝単光章を受章しました。コロナ下のため、皇居での謁見は見送られましたが、5月9日(月)千葉県庁にて伝達式が行われました。

写真は、亀田隆明理事長に伝達式の報告をした際のもので、長年にわたり看護部と品質管理の二足のわらじで医療の質の向上に努力されてこられた原看護師に、理事長からお祝いのメッセージに添えて、長きにわたる貢献に対する感謝とねぎらいの言葉が贈られました。

原看護師のインタビューは次ページに続きます➡

原看護師 喜びのインタビュー「継続は力なり」

原洋子看護師は1969年に亀田総合病院准看護婦学校を卒業。准看護師として当院で働きながら県立長狭高等学校(定時制)を卒業。その後、正看護師の資格を取得するため亀田総合病院高等看護学院で2年間学び、晴れて1974年に正看護師となったからは、呼吸器科、婦人科、透析センターなど長く臨床の現場で看護業務に従事しました。

そんな中、「勤務年数を経て主任、師長といった役割を担うようになったけれど、自分の看護師としての実力はどのようなのだろうか」という疑問に行き当たり、「自分に自信を持てるものがほしい」と2009年に日本看護協会による認定看護管理者の資格を取得。2013年に臨床の現場を離れ、看護管理部のキャリア支援室担当として外国人看護師や認定看護師の支援業務、2016年からは品質管理課兼務となり、JCI(Joint Commission International)やISO9001の認証継続といった病院をあげた医療の質向上に向けた取り組みに大きな力を発揮しました。

2016年には「平成28年千葉県看護功労者知事表彰」を受賞するなど、長年看護業務に精励し、看護の向上・発展に尽力してきました。

Q: 発表までの経緯



今回看護功労者として瑞宝単光章を受章したのですが、実は3月に内定通知の書類が来るまで聞かされておらず、びっくりしました。

後で聞いた話ですが、千葉県看護功労者知事表彰を受けた人の中から何名かが選ばれ、表彰者の所属している企業や団体に問い合わせがあるそうです。企業や団体の管理者も含めて「推薦に値するか」を検討して決めるそうです。

このやりとりは昨年の11月頃に行われたそうです。私自身はJCIの準備が最高潮のときで、「千葉県看護功労者知事表彰の際に提出した履歴書を見直してほしい」という依頼があったときは正直「今忙しいのに…」と感じていました。何かの賞とは聞いていましたが、私自身は何のこ

となのかは分かりませんでした。振り返ってみるとこの時病院とやりとりをしていたのだと思います。

Q: 受章について感じたこと



品質管理のメンバーたちと

今回の受章を機に振り返ってみて「いろいろなことに関わらせていただいた」と感謝しております。

業務担当師長として特に印象に残っているのが、リンクナース会と搬送チームの立ち上げ、そしてインシデント報告書の形式をつくったことです。

1996年に当院の「リンクナース会」が発足しました。リンクナースとは、各病棟において感染管理を担当する看護師のことです。月に一度集まって情報交換を行い、各病棟へ情報伝達や技術を伝える役目を担っています。新型コロナウイルス感染症下でもリンクナースの果たした役割は大きかったと感じており、立ち上げてよかったと感じています。

また私が業務担当師長の時に、当時はリハビリの患者さまが急に増えており、時間通りに始められないことが問題になっていました。そこで各病棟の補助者の方を一人ずつ出して、搬送専門のチームを発足しました。初めは実際に私が電話を取り、チームの方に指示を出して基礎からつくっていきました。今考えてみるとタスクシフトや業務改善の考え方だったと感じています。看護師は病棟から離れることなく看護に集中できるようになったのではないかと感じています。

一番苦労したのは、インシデント報告書です。何かあったら報告をしてレポートを書くということはやっていましたが、基本的に大きなことでないとなかなか出してもらえませんでした。始末書のように抵抗もあったのだと思います。しかし、「どんなことでも報告する」という風土が大事で基礎になると思いました。文献を読み、インシデントのレベル付けをはじめました。あまり影響のない1から2といったレベルから、かなり影響の大きいレベル5などと段階づけることにより、

共通認識を持ち、小さいことでも報告しやすくなるような報告制度を当時の看護部長と考えました。今はシステムに入力していますが、当時は紙での運用でした。浸透するまで2、3年かかりましたが、今ではきちんと報告していただいています。

あとはやはりISO認証です。2000年3月にISO9001を習得しました。病院全体でISOに取り組んだのは実は当院が初めてです。ISOを始める前までは、婦長会(現師長会)で決めたことがうまく伝わっていないことや、病棟で決めたことがいつの間にか分からなくなっていたり、病棟ごとに手順が違うといったこともありました。今では基礎的業務が標準化され、どの病棟でも同じ看護業務が提供できるようになっています。

Q: 後輩看護師さんへのメッセージ

若い看護師さんの中には仕事が嫌になることや、辞めたいと感じることもあるかもしれません。でも「継続は力なり」です。続けることにより視野が開けていくこともあります。

また前向きに考える姿勢も非常に重要だと思っています。仕事を頼まれた時に「嫌だな」と思うことは私にもあります。でも自分がやらなければ他の誰かが「嫌だな」と思うかもしれません。なので私はとりあえず「はい」と答えます。相手は自分を見込んで頼んでくれたので、嫌なことでも一度は引き受けてみれば、必ず将来の栄養になると思っています。

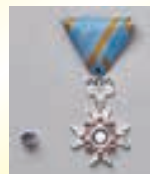
Q: 今後のチャレンジ

本当は70歳で退職する予定でしたが、かねてより当院で課題となっていた「同意書など、患者さまへのインフォームドコンセントのための書類の電子化」のプロジェクトが動き始めており、そちらに関わらせていただいています。もう少し品質管理課に関わらせていただきます。

いずれにせよ、長年仕事を続けてこれたのは家族のおかげだと思っています。亡くなった父母、そして主人の協力に本当に感謝しています。

瑞宝単光章(ずいほうたんこうしょう)

瑞宝章は「国及び地方公共団体の公務」または「公共的な業務」に長年にわたり従事して功労を重ね、成績を挙げた者を表彰する場合に授与される。





今号は…

「オーラルフレイル」

自分の歯をできるだけ残り口腔機能を維持することは、□や全身の健康だけでなく、QOL(生活の質)の向上につながります。いつまでも元気で、自立した生活を送るためにも、□まわりの機能低下を「齢のせい」と見過ごさず、適切にケアすることが大切です。

Q. オーラルフレイルとは？

A. 高齢になって心身の活力(筋力、認知機能、社会とのつながりなど)が低下した状態を「フレイル」といいますが、その入り口として注意をしたいのが口の健康です。

オーラルフレイルとは、嚥んだり、飲み込んだり、話したりするための口腔機能が衰えることを指し、適切なケアや対応を行わないままにすると、さらなる口の機能低下や、食べる機能の障害、さらには心身の機能低下を招き、やがては全身の筋肉や心身の活力の衰えが進み、要介護状態となるリスクが高まります。反対に、早めに気づき適切なケアを行うことで、口腔機能の改善が見込めます。

Q. オーラルフレイルを早期発見するポイントとは？

A. 次のセルフチェックで合計点が3点以上で「オーラルフレイルの危険性あり」、4点以上だと「危険性が高い」と言えます。かかりつけ

の歯科医師に相談してみましょう。

□ 半年前と比べて、堅い物が食べにくくなった (はい↓2点)

□ お茶や汁物でむせることがある (はい↓2点)

□ 義歯を入れている※ (はい↓2点)

□ □の乾きが気になる (はい↓1点)

□ 半年前と比べて、外出が少なくなった (はい↓1点)

□ さきイカ・たくあんくらいの堅さの食べ物を噛むことができる (いいえ↓1点)

□ 1日に2回以上、歯を磨く (いいえ↓1点)

□ 1年に1回以上、歯医者に行く (いいえ↓1点)

※ 歯を失ってしまった場合は義歯等を適切に使って堅い物をしっかり食べることができるよう治療することが大切です

(出典：東京大学高齢社会総合研究機構 田中友規、飯島勝矢)

Q. オーラルフレイルの予防法は？

A. 毎日の歯磨きや口腔ケアはもちろん、定期的な歯や口の健康状態をかりつけの歯科医師に診てもらいましょう。また、口腔機能を改

【口・舌の動きをスムーズにする体操】

(日本歯科医師会ホームページより)

(唇を中心とした) 口の体操



- ①口をすぼめる
- ②イーと横に開く

(舌の体操) 舌圧訓練



- ①舌を左のほほの内側に強く押しつける
- ②自分の指で口の中の舌の先をほほの上から押さえる
- ③それに抵抗するように舌をほほの内側にゆっくり10回押しつける
- ④右のほほでも同じこと繰り返す

善するため唾液分泌を促したり、嚥んだり飲み込んだりするのに必要な筋肉を鍛える。口腔体操に取り組んでみましょう。

歯科診療科部長
大越林太郎 歯科医師



回答者



口腔体操について詳しくは、日本歯科医師会HP「オーラルフレイル対策のための口腔体操」をご覧ください。
https://www.jda.or.jp/ora_flail/gymnastics/

亀田 本舗

『平家物語 犬王の巻』

古川日出夫：作

河出文庫、693円(税込)



祇園精舎の鐘の聲 諸行無常の響きあり。

沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらはす。

古典の授業は苦手だったが、これは覚えているという方もいると思う。『平家物語』の冒頭部分だ。七五調でリズムカルな言いやすさの反面、内容は「諸行無常(ずっと同じ状態であり続けるものはない)」を数行にわたって繰り返している。華やかで大胆な軍記物語のイメージのある『平家物語』だが、根底に通うテーマは「諸行無常」なのだ。

さて、この『平家物語 犬王の巻』も人生の隆盛と衰退、すなわち「諸行無常」を語っている。時は南北朝時代。平家一門が壇ノ浦に沈んでから約150年後。主人公は犬王と友魚(ともな)。猿楽師と琵琶法師である。

犬王は京の猿楽(現代でいう能および狂言)の名家に産まれたが、芸の頂点を切望する父から呪われ、生まれつき五体のバ

ランスを欠いた醜い姿だった。全身を布で覆い、顔を仮面で隠したまま育った犬王は、兄たちの稽古を盗み見て真似るうちに、美しい体を獲得していく。

友魚は壇ノ浦の漁師の子だったが、ある日引き揚げた宝剣・草薙剣に視力と父を奪われてしまふ。自分たちを襲った理不尽の理由を知ろうと京を目指した友魚は、一人の琵琶法師と出会い、平家の物語を歌うようになる。

理不尽を背負わされた二人は京で出会い、親友となり、それぞれの芸を磨いていく。京で彼らを知らない者はいないほどの二大スターとなった。彼らは栄華を手にしたが、ここにもまた「諸行無常」、あっけなく終わりを迎えることとなる。彼らの芸は、朝廷からの命令によって一方的に道を閉ざされたのだ。

この物語の魅力を引き立てているのは、特徴的な語り口だ。古典作品にありがちなゆったりねっとりした長文と

は正反対。ストレートで簡潔、畳み掛けるような情景描写は、目の前で語られているかのようなライブ感を醸し出し、読みの心を沸きあがらせる。作中で「この物語は、走る、疾る。」とあるが、本当に最初から最後まで軽やかに駆け抜けていく文章なのだ。だからこそ一層そこに語られる犬王と友魚の人生は、痛快で、喜びがあり、少し悲しい。輝かしい日々が去ったあと、本当にやりたいことができなくなった二人それぞれの選択に、「芸能」に生きる人の在り方を考えさせられる。

最後になるが、実はこの作品、2022年5月末に『犬王』として映画化されている。YouTubeにプロモーションビデオもあるので、ぜひとも見ていただきたい。



(川蝉亭)

路傍の石のつぶやき

元広報室長

40年前の入職時、医事課に配属された同期の話。

毎朝30人くらいいる職場全員分のお茶出しを新人女子3人が交代で務めるのが日課という。まだ先輩の名前を覚えるのもおぼつかないうちに、湯のみも覚えなければならぬ。パニックだ。おまけに熱いとかぬるいとか、濃いとか薄いとか、美味いとか不味いとかの評価も下る。洗い場で手が滑って割れば当然弁償だ。お茶当番は骨が折れるとこぼすのだった。

しかしなぜ当番は女子だけなのか。トイレ掃除しかり、買い出ししかり、雑巾がけなど全て女性の役回りだった。なぜ男性は免除なのかと詰め寄ると男性擁護に回るのも女性だった。女の敵はオンナかと思っていたが、齢を重ねて分かったことがある。女性には家に帰れば姉であり、妻であり、母だ。男どもの後始末をやらされる位なら、とつとと自分でやっちゃまった方が百倍楽だと知っていたのだ。

今のように、仕事中心いつでも好きな時に、飲みたいものを飲めることがどれほど幸せなことか。当時は朝と午後3時の2回がティータイムと決まっていた、小休憩を兼ねていた。つまりそれ以外の時間は仕事に没頭しろということだ。

だいたいは部署内でお茶代を集め、お茶当番がおやつの買い出しも担う。昭和

50年代は院内に売店がひとつしかなく、そこがすべての調達場所だ。で、このおやつ選びひとつを見て腕の善し悪し、ひいては仕事のできる奴かどうかまでわかった。

皆から集めたおやつ代なので、使い方は当然慎重になる。10代から年寄りまで老若男女がいるため、当然奇抜な品選びはご法度だ。ところが主婦はさすがサイフの紐をにぎっているだけのことはあつて、品選びにセンスが光った。例えば時々板チョコを一人一枚配給したりして気前が良いのだ。食いしん坊の私なんぞは、その人の当番の日が待ち遠しかった。

やがていろいろな部署が誕生し、オフィスが分散するようになると、業務内容にもよるが仕事が一段落したところでひと息つくスタイルとなった。やがて電気ポットが入り、電子レンジが置かれ、今のオフィスのスタイルになってきた。今でも時々同じおやつをつまみながら時事問題を論じ合ったお茶の時間がなつかしく思い出される。

平成になったばかりのある日のこと、同僚が、「ドリアンって食べたことありますか？」と唐突に聞いてきた。とてつもなく臭いけれど果物の王様と呼ばれている南国の果実だそうで、いっぺん食べてみたいのだけれど、これがやたら高価で、自

分一人ではとても手が出ない。みんなでお金を出し合って買ってみたいかということだった。要するに集金型クラウドファンディングだ。仕方ないのでひと口のものにした。たしか一人1,000円、7人で7,000円もだった。言い出しつぺの男性が東京から買って来たが、その臭さにまじ腰が抜けそうになった。まるで生ごみのような腐臭が漂うので給湯室にビニール袋を何重かにして包んで保管した。それでも臭くてお茶を入りに給湯室に入ることもすたためられた。

さらに悲劇だったのは、食べごろの見分け方を誰も知らないことだった。匂いは最初から臭いし、熟して割れてくる気配もない。これで中味が腐っていたら7,000円がパァだ。さすがにもういいんじゃないのとおやつの時間に切ってみることにした。上司も誘い、たまたま集金に来ていた信用金庫の人と9人で味見をした。しっかり食したツワモノはたった2人。私は「喉を通らない」という日本語をはじめて体感した。

あの時皆で記念に埋めたドリアンの種はどうなっただろう。松林の中の背の高い木に不思議な実がなったと話題になったら面白い。

